

2018年度 自己評価結果報告書

—教職員編—

1 本園の教育目標

一 心豊かな思いやりのある子どもに

二 自ら考え、自ら決め、進んで行う子どもに

◎明るく潤いのある子ども ◎思いきり遊べる子ども ◎話をしっかり聴く子ども ◎調べたり、試したり、工夫する子ども

- 1 人との関わりを通して、基本的な生活習慣・態度及び健全な心身を育成することの必要性に気付き、自ら進んでその態度・意識を高めようとする意欲を育む。
- 2 自己発揮と自己抑制との豊かな調和がとれた自律性を養う。活動と休息、開放感と緊張感、動と静などの調和を保った健康的な生活リズムを保障する。
- 3 自然と豊かに関わることを通して、その不思議さ等に気付いたり、科学的認識を高めたり、昆虫などの生命ある小さきものをいとおしむ態度を培う。
- 4 心の働きの表れである『ことば』を大切にし、喜んで話したり、聞いたりする態度を養う。
- 5 多様な感動体験を伴う生活を通して、より豊かな感性を培い、創造する力、想像する力を豊かに育む。

2 本年度の重点評価項目、評価結果、取組・達成状況

重点評価項目		評価結果	取組達成状況
分類	内容		
保育の 計画性	3歳4歳5歳の連続性を重視し、子どもの成長発達に役立たせるために、前年度の担任と話し合う機会をパターン化させる。	A	・前年度の担任と話し合う機会はパターン化されているので続けていきたい。3歳4歳5歳の連続性を重視し、子どもの成長発達や課題など、その都度話し合うことが出来た。また、職員全体で話し合う機会を持ち、教職員間で共通理解を持って子どもたちに関わっていきけるように努めてきた。様々な視点から子どもの姿を捉え、工夫して保育を進めることが出来た。
	人の話を聴くということの自立については、多少制約されつつも集団の中の一員としての自覚を持つよう導き、教師の指示ではなく、子ども自身の必要感に裏打ちされた自立的態度化を求めて日々子どもたちと接している。	A	・人の話を聴くことについて、年齢に応じた関わりを心掛けてきた。年少組は、子ども達の話したい気持ちを十分に受け止めながら、教師は話し方などを工夫して過ごした。年中組は、話を聞く事について自分たちで考えていけるように関わると共に、一人ひとりが発言しやすいような雰囲気を心掛けた。年長組は、子どもたち自身が気づき行動に移せるように関わってきた。話を聴こうとする姿勢や自分の意見を言う姿

	<p>指導計画は、自己発揮と自己抑制との豊かな調和がとれた自律性を養う保育を心掛け、幼児の生活が豊かになることを目標とし、幼児が主体的に関わり、安定して遊び込める環境を活動の展開に応じて再構成している。行事は、幼児の実態に合わせて見通しを持って取り組んでいる。これからも、実際の子どもの姿を十分に見つめながら、互いに見通しを持った保育が展開出来るよう、共通理解を深めて行きたい。</p>	<p style="text-align: center;">B</p> <p>が見られた。今後も幼稚園生活が充実し、話を聴いてもらう喜び、聴く事の楽しさを感じていけるよう、日常の関わりを大切にしていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導計画は、日々の子どもたちの姿から、興味ある遊びや子どもたちが求めているものを受け止め、安心して遊び込めるように環境を整えてきた。年少組は、一人ひとりがやりたいことを十分に楽しめるよう関わった。友だち同士の衝突もそれぞれの思いを聴きながらその都度関わる中で、自分たちで解決しようとする姿も見られた。年中組は、子どもの興味を基に友だちと共に楽しめるような環境設定をしてきた。年長組は子どもたちの興味を受け止めながら、知的好奇心を育むような環境を用意してきた。更に、子どもたち一人ひとりの姿や特徴を捉え、個別指導計画を利用しながら見通しを持った保育を進めていきたい。子どもたちの実態に合わせた保育が展開されるように教材研究を進め、日々の保育を振り返り、検証をし、教職員間で共通理解を持って進めていきたい。
--	---	---

<p>保育の在り方 方 幼児への 対応</p>	<p>ひとりひとりのありのままの姿を受け入れ、幼児の気持ちに共感しながら“個と集団”の関係を常に考慮し、発達段階や個の特性に応じた、見通しのあるかかわりをしている。</p>	<p style="text-align: center;">A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたち一人ひとりのありのままの姿や特性を受け入れ、幼児の気持ちに共感しながら集団の高まりを意識してきた。これから更に、発達段階を踏まえ個の特性を生かしながら、子どもたち一人ひとりが自分は大切にされているという思いや気持ちを受け止められる心地よさを大事にし、見通しのある関わりを目指していきたい。 ・異年齢の関わりについては、朝の遊びの時間等で自然な形で関わることができ、子どもたちが年長児に
---------------------------------	--	--

	<p>他のクラスや異年齢の幼児と関われるよう、様々な保育の形態を取り入れ、指導上配慮を必要とする園児については特に情報の交換を密接にし、共通理解をもって対応している。</p>	<p>B</p>	<p>対する憧れや自分より小さい友だちに対しての優しい気持ちが育まれてきた。今年度は計画的な取り組みがあまり持てなかったため、来年度は意図的に異年齢との交流を意識していきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導上配慮を必要とする園児については、特に情報の交換を密接にし、家庭等との連携を持ち対応してきた。今後もさらに、一人ひとりの内面を理解し、特性を生かせるように教職員間での共通理解や共通認識を深めていきたい。また、早期対応に心掛け子どもたちが必要としていることを見極め、実践を基に検討していきたい。
<p>研 修 と 研 究</p>	<p>人間形成のために、本園の教育目標Ⅱ『自ら考え、自ら決め、進んで行う子どもに』を重視し、“幼児一人ひとりが人間として命を大事にして生きていくこと”と“自分に対して誠実に生きること”ということを願い、遠い将来を見通した幼児教育を目指している。</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育目標を念頭に置き、人間形成のために、子どもたち一人ひとりの思いに向き合い、共感し、安心して自分を表せるように援助してきた。子どもたち一人ひとりが自分に出来る事を考えていく経験を積み重ね、それぞれの場面で考え合い、大切にしたいことを互いに伝えながら過ごしていきたい。今後も自分で考え行動できることを重視し、思いやりの気持ちを持ち、相手の辛さを感じられる子どもであるように願い、子どもたちの将来を見通した幼児教育を目指していきたい。

	<p>協同性と表現を大きな柱とし、保育を進める上で科学的な考察、実践的な考察を有機的に結合させていく。これは、子どもの発達の見通しや家庭や小学校との連携においてもこの視点で伝えていく。</p>	<p>B</p>	<p>・子どもたちが何に興味を持ち、楽しんでいるのかを見極めながら保育を行ってきた。一人ひとりのイメージした世界に共感し、様々な表現が生まれ、互いの良さを生かし合う場となった。今後も更に日々の保育の振り返りや教職員間での意見交換を充実させ、教師の感性を磨きながら保育を多角的に考察・分析し、科学的考察と実践的な考察を結合させ、幼児理解に努めていきたい。これを、家庭や小学校との連携に活かし、丁寧な情報交換を行いながら共有していきたい。</p>
--	--	----------	---

※自己評価欄の記入方

A ; 十分に達成されている。

B ; ほとんど達成されているが、部分的に課題が積み残されている。

C ; 課題が多く積み残され、ほとんど成果が上がっていない。

3 総合評価

「3歳4歳5歳の連続性を重視し、子どもの成長発達に役立たせるため前年度の担任と話し合う機会をパターン化させる。」このことは子どもの様子を知ることが出来る貴重な機会であり必要な内容である。今後も継続していきたい。

それぞれの年齢に合った生活の中で子どもたちの遊びが充実し自己発揮出来る環境設定を考え取り組んできた。表現活動では子どもたちの特性が活かされ、力が発揮でき、互いに共感できる内容になった。運動遊びでは子どもたち同士が影響し合い互いに声を掛け合う等、積極的に活動する姿が見られた。年下の子どもたちは、年長児の日常の姿に憧れを抱き、福島の子どもたちへの支援の活動に興味を持ち、次は「自分たちが行いたい。」という思いを膨らめていった。自然との関わりの中で植物や作物を育て、水やり等の世話をする中で、興味関心を持って積極的に取り組んでいた。同時に子どもたちの感性や友だちへの思いを大切にすることが出来た。子どもたちは友だちへの優しさが溢れ、様々な場面で互いの思いを受け止めようとしていた。

今年度は、「食育について」「児童虐待について」の研修で学んだ教職員に内容を述べてもらい園内研修を行うことが出来た。社会の中で、子どもたちの日常に起こっていることを知ると同時に、私たちに出来ることを考え合い、敏感に情報に耳を傾け、事前に対処出来るようにしていきたいと学び合った。今後も同様に研修を積み重ね、子どもたちの日常や保護者への関わりを大切にしていきたいと確認し合うことが出来た。

子どもたちの様々な思いを受け止めながら、心豊かな思いやりのある子どもたちであるように、自ら進んで行き自信を持って生活出来るように、そのことを保障していきたい。

4 今後の改善点

改善点	具体的な取り組み内容
-----	------------

<p>・ 保育の計画性</p>	<p>◎発達段階や個の特性に応じた見通しのある関わりに努めてきた。今後も引き続き教職員間での話し合いを充実させ、子どもたちの姿を幾つもの角度から捉えていきたい。子どもたちの姿から保育計画を実践していくために、記録をまとめる等、放課後の時間を十分に活用させる。また学年会議での意見交換を充実させ保育に活かせるようにする。</p> <p>○職員会議では原案をベースにし、事前に原案を下読みする等、話し合いが進むように準備し、教職員間の話し合いの内容や時間設定を計画していく。</p> <p>○必要に応じて個別の指導計画を立て実施していく。</p> <p>○集団遊びの充実により、異年齢の集団が形成され、遊びの充実が見られたので引き続き計画を立てる。</p> <p>○異年齢の関わりを計画的に実施する。</p>
<p>・ 研修と研究</p>	<p>◎表現と協同性を柱とし、子どもたちの日常を大事にしながら、保育記録を活用し話し合いを進めていく。幼児期に育みたい姿を見極め、幼児の実態に合わせて見通しを持って実践していく。</p> <p>○新たに年齢別教育課程に研究の粋を記載し、年間を通して「協同性」「個と集団の育ち」「遊びの充実」の実践を生かし年齢別に研究していく。</p> <p>○保育の向上を目指し園内公開保育を実施し学び合う。</p> <p>○教師一人一人の保育の深まりや幼児教育を学ぶために講師による園内研究の充実を図り実施していく。</p> <p>○分野別の教職員の業務を生かし研修に赴きその内容をまとめ園内研修で学び合う。</p>